

O H T A W A R A S H I N K I N B A N K

DISCLOSURE 2012.9

ディスクロージャー誌

お客さまひとりひとりに、
いつも心のこもったサービスを。



地元の皆さまとともに
大田原信用金庫

ごあいさつ

平素より格別なご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。

この冊子は、当金庫の平成24年度上半期業績や活動状況などを取りまとめたものでございます。ご高覧いただき、当金庫へのご理解を深めていただければ幸いです。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年11月
理事長 村田 稔

金庫概要

(平成24年9月30日現在)

名 称	大田原信用金庫
本店所在地	大田原市中央1丁目10番5号
設 立	昭和3年2月
出 資 金	467百万円
役 職 員 数	141名
事 業 所 数	9店舗

経営理念

1. 地域社会繁栄の奉仕と共に信頼と協力に応える
2. 中小企業の健全な育成発展に貢献する
3. 公共性、信頼性、収益性を基本に健全経営に努力する

第3次中期経営計画

《だいしん With your smile 2011》
～お客さまとのよりよい信頼関係を発展させる3ヵ年～
(平成23年4月から平成26年3月までの3ヵ年)

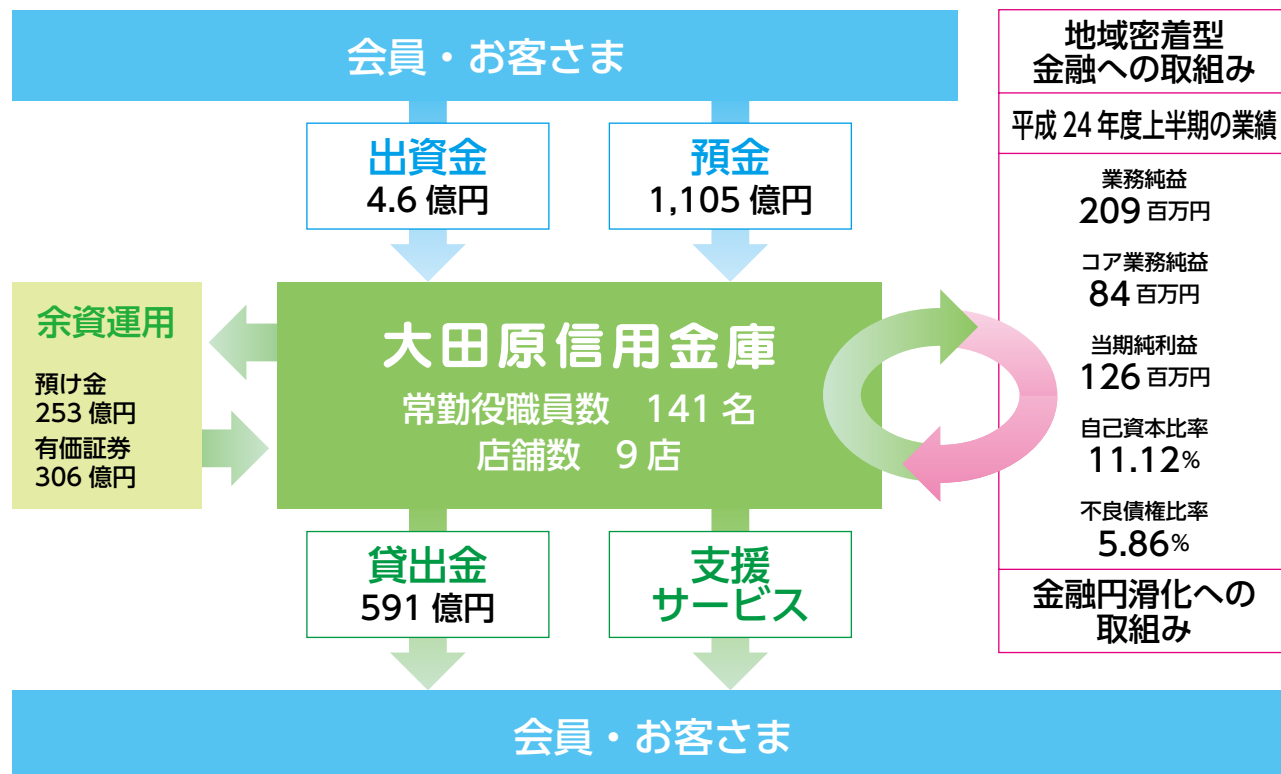
目指す姿 地域密着型金融を着実に進め、お客さまとのよりよい信頼関係を築き、地域に根ざす金融機関として、一層の経営基盤の強化を目指します。

基本戦略

- I. 地域の金融仲介機能の一層の発揮に努め、地元の皆さまの事業や生活の繁栄を通して地域経済への貢献を目指します。
- II. 収益力と健全性を高め、お客さまにご安心いただける信頼性の高い金融機関を目指します。
- III. 地域に合った金融ニーズを的確に捉え、質の高いサービスが提供できる人材の育成を目指します。

大田原信用金庫と地域社会とのかかわり

だいしんは 相互扶助型の金融機関	地域の資金を地域に還流	地域経済の 持続的発展に向けて
当金庫は栃木県北部地域を主な事業区域とし、会員（地域の中小企業や住民）がお互いに助け合い、ともに発展していくことを理念として運営されている相互扶助型の金融機関です。	地域のお客さまからお預かりした大切な資金（預金等）は、資金を必要とされる地域のお客さまに融資を行い、事業や生活の繁栄のお手伝いをさせていただいております。	地域との強い絆やネットワークを形成し地域経済の持続的発展に努めております。また、金融機能の提供にとどまらず地域社会の活性化に積極的に取り組んでおります。



地域との歩み

月	日	出来事	月	日	出来事
5 月	25日	「だいしん経営塾」例会	7 月	24日	「だいしん経営塾」例会
6 月	1日	定期預金「サマーキャンペーン」の実施	27日	「信樹会」総会	
	1日	終身保険「ふるはーとW」の取扱開始	28日	「西那須野ふれあいまつり」参加	
	3日	ロータリークラブ主催の 善勝川清掃活動に参加	29日	児童向け夏休み学習教室を開催 (ダンボール工作教室)	
	11日	経営報告会(一区)	8 月	2日	東那須野だいしん会総会
	14日	経営報告会(二区)		3日	「与一まつり」参加
15日	経営報告会(三区)	6日		教育ローン「出世払いII」の取扱開始	
	27日	第84期通常総代会	9 月	11日	西那須野だいしん会総会
7 月	13日	美原だいしん会総会		19日	「だいしん経営塾」例会



このシンボルマークは大田原信用金庫の頭文字<O>と信用金庫の頭文字<S>を組み合わせてデザイン化したもので、宇宙空間的な円の構成で表現しております。

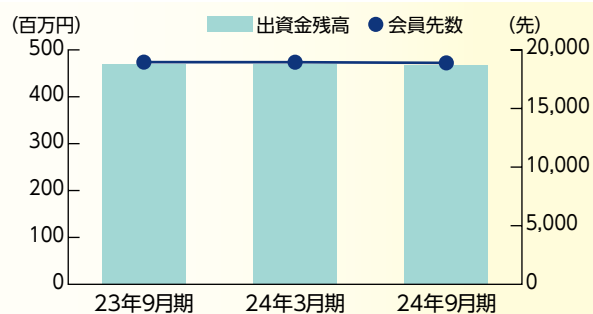
大きな円は大田原の<O>、大きな円の中に浮かぶ小さな円は信用金庫の<S>を含む天体で、この<S>には、お客さまのサクセス（成功）と私達のサービス（奉仕）の精神の意味が含まれております。

また、このマークは5つの円の全周又は部分で構成しており、「たくさんのお客さまといつまでもご縁（ご縁）がありますように。」という大切な願いも込められております。

会員の状況

平成24年9月末現在の会員は18,894先、出資金残高は467百万円となり、おかげさまで順調に推移しております。なお、会員の皆さまに対しては4%の出資配当(平成23年度実績)のほか、特典として出資配当金振込指定の普通預金口座について0.002%の金利上乘せ、電信振込や代金取立の手数料優遇を実施しております。

●会員の状況



預金の状況

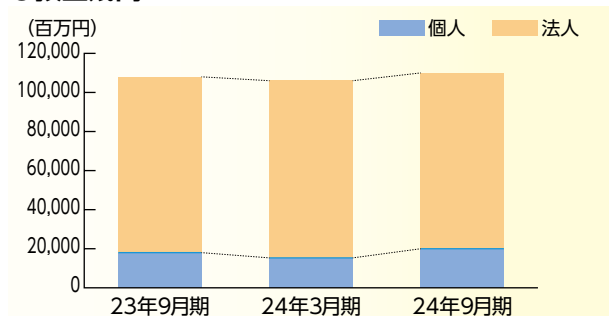
預金残高は上半期で4,733百万円増加し、110,572百万円となりました。これからも地域のお客さまへの金融サービスの提供や資産形成のお手伝いをさせていただくため、商品・サービスや各種機能をより一層、充実させてまいります。

●人格別預金残高

(単位: 百万円)

項目	24年3月期 (B)	24年9月期 (A)	増減 (A-B)
預金残高合計	105,839	110,572	4,733
うち個人	90,487	90,518	31
うち法人	15,351	20,053	4,702

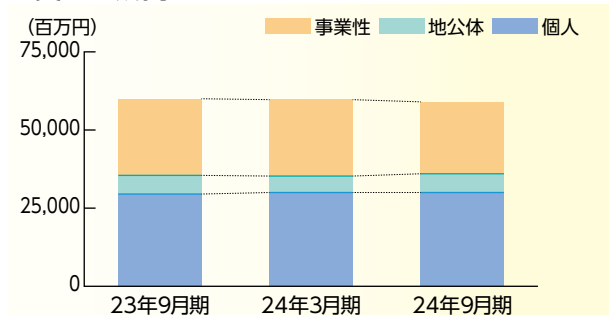
●預金残高



貸出金の状況

貸出金残高は上半期で667百万円減少し、59,159百万円となりました。これからも地域で資金を必要とされるお客さまに適切なご融資をさせていただき、事業や生活の繁栄のお手伝いに努めてまいります。

●貸出金残高



●業種別貸出金残高

(単位: 百万円)

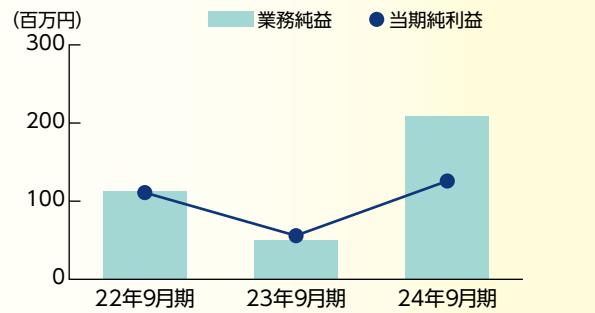
業種区分	24年9月期		
	貸出先数 (件)	貸出金残高	構成比
製造業	146	3,359	5.67%
農業、林業	33	514	0.86%
漁業	1	43	0.07%
鉱業、採石業、砂利採取業	1	5	0.00%
建設業	317	4,554	7.69%
電気・ガス・熱供給・水道業	5	40	0.06%
情報通信業	—	—	—
運輸業、郵便業	25	685	1.15%
卸売業、小売業	264	4,470	7.55%
金融業、保険業	7	510	0.86%
不動産業	66	2,681	4.53%
物品賃貸業	5	52	0.08%
学術研究、専門・技術サービス業	6	35	0.05%
宿泊業	13	416	0.70%
飲食業	99	954	1.61%
生活関連サービス業、娯楽業	32	970	1.63%
教育、学習支援業	9	143	0.24%
医療、福祉	23	1,152	1.94%
その他のサービス	200	2,747	4.64%
小計	1,252	23,341	39.45%
地方公共団体	7	5,984	10.11%
個人	4,992	29,834	50.43%
合計	6,251	59,159	100.00%

(注) 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

収益の状況

- **業務純益**…金利低下により資金利益は前年同期比54百万円減少しましたが、前年度に発生した有価証券処理費用の戻りが104百万円あったことに加え、経費削減に取り組んだ結果、業務純益は前年同期比149百万円増加し209百万円となりました。
- **不良債権処理関係損益**…前年度まで発生していた貸倒引当金の戻入益が大きく減少したことから、不良債権関係損益は前年同期比139百万円悪化し27百万円の損失計上となりました。
- **当期純利益**…不良債権処理関係損益の悪化がありました。有価証券処理費用の戻入や経費削減の効果により、当期純利益は前年同期比60百万円増加し126百万円となりました。

損益の状況



(単位：百万円)

項目	23年9月期(B)	24年9月期(A)	増減(A-B)
業務粗利益(a)	783	895	112
資金利益	854	800	△54
役務取引等利益	△12	△17	△5
その他業務利益	△58	113	171
うち債券関係損益(損失を△表示)	△58	113	171
一般貸倒引当金繰入額(b)	—	△11	△11
経費(c)	723	697	△26
業務純益(a-b-c)	60	209	149
臨時損益	25	△81	△106
経常利益	85	127	42
特別損益	0	0	0
当期純利益	66	126	60
不良債権処理関係損益(損失を△表示)	112	△27	△139
有価証券関係損益(損失を△表示)	△135	75	210

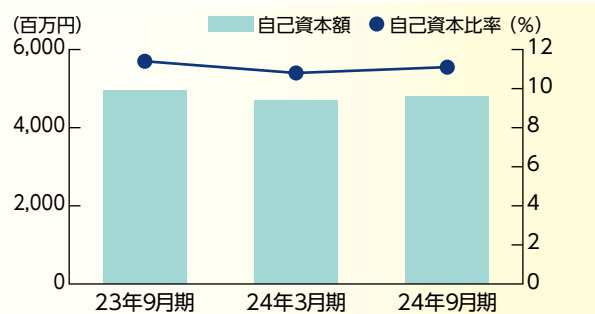
自己資本の状況

財務内容の健全性を示す代表的な指標である自己資本比率は、平成24年3月期比0.27ポイント上昇し11.12%となりました。主な理由としましては、当期純利益を126百万円計上したことで、自己資本額が増加したことなどによるものです。

当金庫の自己資本比率は国内基準の4%を大きく上回る水準にあり、「安心してお取引いただける信用金庫」と考えております。今後も安定した利益確保により、自己資本の充実に努めてまいります。

なお、中核的自己資本(Tier1)比率は11.01%となり、平成24年3月期比0.29ポイント上昇しております。

自己資本の状況



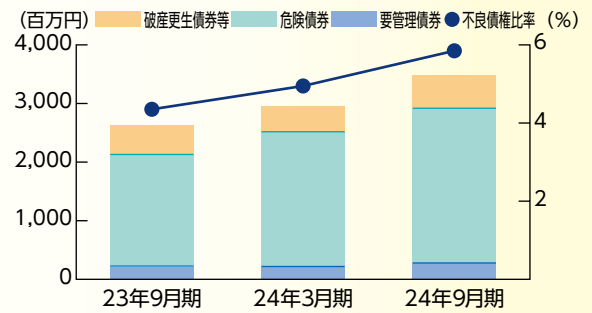
(単位：百万円)

項目	24年3月期(B)	24年9月期(A)	増減(A-B)
自己資本額(a) = (b+c-d)	4,712	4,825	113
Tier1(b)	4,655	4,779	124
Tier2(c)	56	45	△11
控除項目(d)	—	—	—
リスク・アセット等計(e)	43,404	43,375	△29
オン・バランス項目	40,139	40,118	△21
オフ・バランス取引等項目	84	77	△7
オペレーショナルリスク・アセット	3,180	3,180	0
Tier1比率(b/e)	10.72%	11.01%	0.29pt
自己資本比率(a/e)	10.85%	11.12%	0.27pt

不良債権の状況

金融再生法ベースの不良債権比率は5.86%となり、平成24年3月から0.90ポイント上昇しました。これは、長引く景気の低迷などにより不良債権が増加したことによるものですが、不良債権に対する保全率は83.96%となっており、不良債権残高の8割以上が貸倒引当金、もしくは担保・保証によって保全されています。今後とも、お取引先の経営改善支援や事業再生支援等を通して不良債権の発生防止に取り組んでまいります。

●不良債権の状況



(単位：百万円)

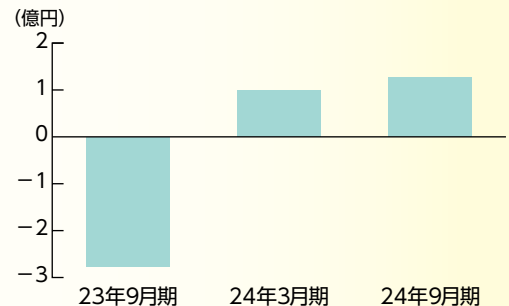
項目	24年3月期(B)	24年9月期(A)	増減(A-B)
金融再生法上の不良債権(a)	2,978	3,479	501
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	439	559	120
危険債権	2,317	2,638	321
要管理債権	221	280	59
保全額(b)	2,495	2,921	426
貸倒引当金(c)	286	308	22
担保・保証等(d)	2,208	2,613	405
保全率(b/a)	83.80%	83.96%	0.16pt
引当率[c/(a-d)]	37.14%	35.57%	△1.57pt
正常債権(e)	57,022	55,849	△1,173
与信合計(a+e)	60,000	59,328	△672
不良債権比率[a/(a+e)]	4.96%	5.86%	0.90pt

有価証券の時価情報

預金の支払準備や余裕資金の運用として、預け金のほか有価証券等を保有しております。

有価証券のうち「その他有価証券」の評価差額は、127百万円となりました。これは、前年度までにリスクの大きい有価証券を処理してきた結果によるものです。依然として市況の低迷が続いていますが、安全性や流動性を重視した運用構成に努めてまいります。

●「その他有価証券」評価差額の状況



●有価証券の時価(平成24年9月期)

【満期保有目的の有価証券で時価のあるもの】

(単位：百万円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額	差額	
				うち益	うち損
外国証券	1,300	1,215	△84	20	105

【時価のない有価証券の貸借対照表計上額】

区分	貸借対照表計上額
非上場株式	13百万円

【その他保有目的の有価証券で時価のあるもの】

(単位：百万円)

区分	取得価格(償却原価)	貸借対照表計上額	評価差額	評価差額	
				うち益	うち損
株式	495	441	△54	12	66
債券	25,540	26,081	540	562	21
国債	5,132	5,348	215	215	—
地方債	3,581	3,679	97	97	—
社債	16,826	17,054	228	249	21
外国証券	814	762	△51	1	53
その他(投信等)	2,331	2,024	△307	18	325
合計	29,182	29,309	127	593	465

金融円滑化管理体制

当金庫にとって、地域の中小企業等への適切な資金供給並びに経営相談・経営支援等に真摯に取り組むことは、信用金庫に課せられた重要な社会的使命であります。当金庫はこれらの取り組みを徹底するため、「地域金融円滑化のための基本方針」を定めるとともに、本方針を適切に実践するために必要な体制を整備しております。

金融円滑化に向けた体制整備の状況

- ① 「金融円滑化管理方針」を含む管理規程を制定するとともに、金融円滑化管理責任者を選任し、適切な金融円滑化管理体制を整備しました。
- ② 各営業店に「金融円滑化相談窓口」を、本部には「苦情相談の専用窓口」を設けています。
- ③ 経営改善を支援する部署を設置し、与信先へのきめ細かな経営改善・事業再生支援の実施に取り組んでいます。
- ④ 与信先の事業価値を見極める能力(目利き力)の向上を図るため、継続的な研修等を実施しています。
- ⑤ 審査部門は、融資審査の質の向上と迅速化に取り組んでいます。

貸付の条件の変更等の実施状況について

平成21年12月4日に施行された「中小企業者等に対する金融の円滑化を図るための臨時措置に関する法律」の第4条および第5条に基づく「貸付の条件の変更等」について、平成24年9月末現在の実施状況は以下のとおりです。なお、情報開示の詳細につきましては、店舗に備え付けていますので、お近くの営業店にお申し出ください。

(単位：百万円)

貸付債券内訳	申込み		実行		謝絶		審査中		取下げ	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
中小企業者向け	1,551	16,608	1,435	14,992	79	1,151	9	261	28	203
住宅資金向け	92	1,240	72	882	11	216	4	25	5	115

※上記計数は、件数は債権単位で集計しております。また、金額は申込み時点での債権額です。

※「申込み」とは、「お客さまからの貸付条件の変更等の申込みを書面または口頭で受け付けたもの」を指します。

※「謝絶」には、「申込みから3ヵ月を経過したもの」も含まれます。

東日本大震災への主な対応

◆専用相談窓口の設置

震災に係る様々なご相談に応じるため、「特別ご相談窓口」を全店舗に設置しております。開設時間は平日の午前9時から午後3時までです。

◆融資商品の取り扱い

栃木県や各市町の制度融資に加え、「だいしん災害復旧ローン」を取り扱い、金融面から事業支援や生活再建のお手伝いをさせていただいております。平成24年9月末の実績は下記のとおりです。

資金用途	平成24年9月末実績	
	件数	金額
事業性資金	145件	1,323百万円
消費性資金	76件	167百万円
合計	221件	1,490百万円

※「だいしん災害復旧ローン」は、平成24年9月末にて新規取り扱いを終了していますが、震災に係る融資申し込みについて積極的に対応しています。

◆預金商品の取り扱い

募集総額の0.25%を当金庫が義援金として被災地に寄付をする「だいしん震災復興支援定期積金」を取り扱いました。最終的に、217件のご賛同をいただき、790千円の義援金となり、全国の取扱信用金庫と合算した407百万円が信金中央金庫を通じて、社会福祉法人中央共同募金会に寄付されました。

また、現在は、募集総額の0.25%を当金庫が東日本大震災にかかる遺児・孤児の就学等を支援するための基金に寄付をする「東日本大震災子ども応援定期積金」を取り扱っています(お客さまに、寄付金のご負担はありません。詳細は、窓口にお問合せいただくかホームページをご覧ください。)

◆避難されているお客さまへの対応

被災地の信用金庫とお取引があり被災県外に避難されているお客さまに、次の被災金庫に代わって預金の一部支払を行っております。

対象金庫・・・宮古、杜の都、石巻、気仙沼、あぶくま、ひまわりの6信用金庫

◆節電への取り組み

夏の電力需給不足への対応として、「節電行動計画」を策定し、全役職員が節電に対して積極的に取り組んでいます。

◆寄付の実施

下野新聞社や全国信用金庫協会を通して、金庫および役職員で総額3,630千円を被災地に寄付いたしました。

◆店舗所在地

No.	店舗名	郵便番号	所在地	電話番号
①	本店	〒324-0056	大田原市中央1丁目10番5号	0287-22-3130
②	黒磯支店	〒325-0061	那須塩原市末広町53番地107	0287-62-0678
③	西那須野支店	〒329-2727	那須塩原市永田町5番1号	0287-36-1255
④	黒田原支店	〒329-3222	那須郡那須町大字寺子丙2番地73	0287-72-1131
⑤	野崎支店	〒324-0035	大田原市薄葉2287番地9	0287-29-1221
⑥	東那須野支店	〒329-3153	那須塩原市大原間378番地1	0287-65-2031
⑦	美原支店	〒324-0047	大田原市美原1丁目6番14号	0287-22-3800
⑧	南支店	〒324-0053	大田原市元町1丁目7番10号	0287-23-7650
⑨	矢板支店	〒329-2142	矢板市木幡1369番地9	0287-43-4646

◆店外CD設置場所

栃木県信用金庫協会県庁内出張所

◆とちまるネット

栃木県内に本店を置く7金融機関(当金庫・栃木信用金庫・佐野信用金庫・烏山信用金庫・足利銀行・真岡信用組合・那須信用組合)は、「とちまるネット」によりATM業務提携を行っています。

平日8時45分から18時まで、提携金融機関のお客さまが、提携金融機関のATMを利用して現金のお引き出しを行う場合、「他行ATM手数料」が無料となります。

※時間外手数料については、各金融機関所定の手数料がかかります。

※お振込みにおける「他行ATM手数料」は、提携の対象外です。

※ATMの設置場所や稼働時間等の詳細につきましては、各金融機関のホームページ等をご覧ください。



〒324-0056 栃木県大田原市中央 1-10-5
TEL:0287-24-2266 FAX:0287-22-5102
<http://www.ohtawara-shinkin.co.jp/>